



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	日韓間における大学生の観光形態の特徴について : 2010年調査を基に ( 論説 ) ( fulltext )
Author(s)	安, 哉宣
Citation	学芸地理(71): 75-90
Issue Date	2016-02-18
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2309/145214">http://hdl.handle.net/2309/145214</a>
Publisher	東京学芸大学地理学会
Rights	

# 日韓間における大学生の観光形態の特徴について — 2010年調査を基に —

安 哉宣\*

キーワード: 海外観光, 観光形態, 観光経験, 日本人大学生, 韓国人大学生

## I はじめに

### 1. 研究の背景と目的

観光者の行動は、「観光前」「観光中」「観光後」の大きく3段階に分けて捉えることができ、各々の段階に焦点を当てた研究が多くなされている。例えば「観光前」の段階では、観光実施に至るまで影響を与える内部的要因(Push Factors)及び外部的要因(Pull Factors)、「観光中」の段階では、現地での観光行動、「観光後」の段階では、観光経験に対する満足や評価が主な研究対象となっている。そして、これらを扱った研究では観光者の人口統計学的特性、モチベーション、ライフスタイルなどによる行動の同質性や異質性が報告されている(Pearce, 2005; Dann, 1993; Nozawa, 1992)。一方、比較文化的観点から観光行動に着目した研究もなされている。Kim, C. & Lee, S. (2000)は、海外観光動機について日本人観光者の場合、社会的地位や家族との絆、知識向上を重視することに対して、アメリカ人観光者は日常脱出、新奇性を相対的に重視することを明らかにした。Money, R. B. & Crotts, J. C. (2003)は、日本人とドイツ人の

情報収集の差異を分析し、日本人の場合は観光をする前に旅行会社と相談をする傾向が強く、ドイツ人は、マスコミや目的地の観光庁で観光情報を収集していることを示した。また、観光先での観光行動における日本人観光者の特徴として、買い物や人為的な観光対象を楽しみとする傾向が強いこと、パッケージツアーの利用が多いこと、安全や質に対する欲求が高いこと、現地で消費額が多いことなどが報告されている(Jansen-Verbeke, M, 1991; Baily, 1992; Nozawa, 1992)。Pizam & Jeong (1996)は、国籍(韓国, 日本, アメリカ)による観光行動の特徴に注目し、観光期間, 食べ物, 冒険と安全, 新しさと親しみ, 写真撮影, 手紙などにおいて大きな違いがみられることを指摘した。観光者の満足度や再訪問意向に関しても日本人は楽しさとリラックスできることを重視する一方、アメリカ人と中国人は、観光行動を通じた知識習得を重視するといった差異が示されている(Reisinger, Y., Turner, L. W. 2002; Caneen, J. M.; 2003)。

以上のように国籍による観光行動の違いがみられる中で、Dann (1993)は、その違いを説明する要因として「国籍」を用いることを指摘し

\* 静岡英和学院大学・短期大学部

ている。その理由として移民などによる世界化、居住国家と出生国家の違い、社会の多元性などを取り上げており、観光者は人口統計学的特性、モチベーション、ライフスタイルにより同様の観光行動を行うといった観光者文化を強調している。また、Pizam&Sussmann(1995)は、欧米人に比べてアジア人の団体行動が顕著に多いことについて、地理的な距離や言語の問題を要因として取り上げた。しかし、Pizam&Jeong(1996)は、訪韓外国人の観光行動を検討した結果、地理学的に近い日本人観光者の方が、アメリカ人観光者より団体行動が多く、訪問先と同様の漢字文化圏である日本人観光者の方で団体行動が多いことから行動の差異が地理的距離や言語の問題だけではないことを示した。つまり、観光行動には国民性や習慣などの文化的要素が影響を与えており、社会的、文化的要因によって観光行動の好みや態度が異なっていると言える。

観光をする人間の行動特性の解明において、観光者の属性、観光動機や目的の似た人々の特徴的な観光形態や構図が存在している中で、異なる文化背景を持つ観光者の行動を扱った研究の蓄積はまだ少ない。また、従来の比較文化的観点から観光行動を扱った研究をみると、欧米人とアジア人の比較が多く、同様な文化圏としてみなされてきたアジア人を対象とした比較分析の視点が欠けている。なお、調査対象地域もヨーロッパやアメリカが主流である。近年、アジア人の海外観光急増による海外観光市場の構造に変化が表れている中で、アジア圏を対象地域とした研究や個人観光とそれにもなう行動の多様化の解明が課題とされている。

そこで本研究では、同じアジア人でありながら、異なる文化背景を持つ観光者の観光行動を把握することを目的とし、海外観光先でみられる観光形態の特徴を明らかにする。具体的には

アジア圏において密接な国際観光交流を行っている日本と韓国に注目し、相手国を訪れる大学生観光者の現地での観光行動の内容及び観光経験による評価について検討を行う。現地での活動は観光欲求と動機を実現する過程であるとともに、満足など後続評価を理解する上に必要である(Park, 1999)。観光者の全体的な観光経験が、観光地選択から現地体験、評価の段階で行われるとすれば、観光経験の把握において観光後の評価も踏まえて検討する必要がある。しかし、後続評価に関する既存研究では、観光前と観光後にそれぞれ調査を行っているため、調査対象の同質性が欠けていることが問題点として上げられている。それに関して、Stewart&Hull(1992)は、実時間(real time)研究と事後(Post hoc)研究の差異点に言及している。すなわち、事後研究の場合、回想期間に観光経験に対する記憶に依存するために記憶に対する接近性、個人の回想力、回想期間における様々な環境的要因などによって、歪曲される可能性がある。そのため、正確な観光経験を把握するためには実時間研究の必要性を提起している。Kim, C. W. & Yun, H. J.(2009)は、「観光経験による認識の差異は、個人の主観的判断に基づくものであり、観光経験は一連の時間と空間の中で行われるものとして、観光をする間に接する様々な環境と状況により経験の質や受ける印象は変化する。従って、観光経験をより詳しく把握するためには既存の量的研究方法だけでは不十分である(筆者訳)」と指摘している。

以上のことを踏まえて本稿では、日本と韓国の大学生観光者の観光行動の内容及び観光経験による評価を把握するためにタイム・バジェット調査<sup>1)</sup>と質的研究方法を用いて分析する。観光の時間内にどのような観光行動を行っているのか、その特徴を捉えつつ、観光経験による認識を彼・彼女ら自身の語りを通して明らかにす

る。

日本と韓国は地理的に近く、文化的に類似しているところもあり、調査を行った2010年度は約545万人がお互いの国を訪れるなど活発な観光交流が行われていた(国土交通省観光庁, 2012)。しかし、両国の政治や経済状況は異なっており、さらに、反日・反韓感情など心理的距離感を抱いていることが報告されている(安, 2013)。心理的距離感を抱いている日本と韓国間の観光交流において、相互間で行われている観光実態や観光経験による影響を把握することは今後の日韓間の観光交流を展望する上で意味があると思われる。海外観光の経験は異文化を理解したり、受容する機会となり、他文化に対する偏見を解消させることもあるといわれている(Thyne&Todd, 2006)。さらに、「若者」と呼ばれる時期における海外での観光行動は、時代によって変化しているため、過去の若者の海外観光形態を知ることは、若者観光者が持つ観光行動の特徴を計るうえで有意義であると考えられる。

## 2. 調査方法

韓国を訪れた日本人大学生の観光者と日本を訪れた韓国人大学生の観光者を対象にタイム・バジェット調査とインタビュー調査を行った。調査地域は、日本の場合、東京と大阪、韓国の場合、ソウルと釜山である。調査対象者の構成は、第1表の通りである。

調査は主に宿泊施設で行い、宿の選定にあたっては、インターネットの情報(ブログ、コミュニティサイトなど)、大学の生協、ガイドブックなどで取り上げられている宿泊施設の中で、若者の宿泊率が比較的に高いと判断される宿を選定し、滞在している大学生観光者を対象に調査を進めた。

第1表 調査対象者の構成(名)

調査地域		男性	女性	計(内)
日本	東京	4	19	23(14)
	大阪	17	7	24(10)
韓国	ソウル	8	12	20(9)
	釜山	7	8	25(15)

注：(内数)は、タイム・バジェットの作成に応じてくれた学生の内、インタビュー調査にも協力してくれた学生の数を表す。

第2表 調査期間

調査地域		調査期間
日本	東京	2010年8月16日～21日
	大阪	2010年8月23日～27日
韓国	ソウル	2010年9月14日～19日
	釜山	2010年9月21日～26日

インタビュー時間は約30分から1時間程度であり、大学生であることを確認した上で実施した。タイム・バジェットに関しては、インタビュー前後やチェックインの際に配布し、宿泊期間内やチェックアウトの際に回収する形で行った。調査期間は、第2表の通りである。調査内容は、1)観光形態に関する質問(属性、訪問回数、手配方法、情報収集方法、同行者、交通手段)、2)経済的な側面に関する質問(旅行代、現地で使った費用、食費、交通費など)、3)観光行動に関する質問(今回の観光で求めること、重視すること、訪問先、観光内容)、4)観光経験による認識に関する質問(観光中の印象、今回の観光で感じたこと、観光前後の変化、再訪問意向)である。

## II 日韓大学生の観光形態

### 1. 訪韓日本人大学生観光者の観光形態

まず、訪韓日本人大学生観光者の特徴をみると、第3表のようにまとめられる。

ソウルを訪れた日本人大学生観光者は、主に旅行会社のパッケージツアー(自由旅行型)を利用している。一方、釜山を訪れた学生はパッケ

第3表 訪韓日本人大学生の観光形態

	ソウル観光者	釜山観光者
滞在期間	2泊3日, 3泊4日	1泊2日, 2泊3日, 3泊4日
訪問回数	初めて, 2回以上	初めて, 2回~5回以上
同行者	友達, 家族	友達, 家族
予算	約5万円~10万円	3万円~5万円
一日の観光費用	約1万円~2万円	5,000円~1万5千円
交通費	約500円~1,000円	約300円~1,500円
食費	約2,000円~3,000円	約1,000円~2,000円
買い物	約1万円前後	約2万円前後

資料：調査結果により作成。

注：現地参考為替相場(2010年9月14日~26日)

100円=1,193.70ウォン~1,189.60ウォンである。

ージツアー(自由旅行型)やガイド付きのツアーを利用している。ソウルを訪れた日本人大学生観光者の滞在期間は、2泊3日や3泊4日が多く、初めての韓国観光や2回以上訪問した経験がある観光者であった。友達や家族と同行しており、一人旅はあまりみられない。滞在期間中の観光経費をみると、約5万円~10万円を、一日の観光費用としては、約1万円~2万円を消費していた。このうち、交通費が約500円~1,000円、食費が約2,000円~3,000円を占め、一日の買い物で使う金額は約1万円前後であった。

続いて、釜山を訪れた日本人大学生観光者の特徴をみると、ソウル観光者に比べて1泊2日の短い日程となっていた。また、釜山を2回~5回以上訪問した経験がある観光者が多かった。つまり、釜山を訪れる日本人大学生観光者は、短い日程で頻繁に訪れる傾向があると言える。友達や家族と同行しており、滞在期間中の観光経費は、ソウル観光者に比べて3万円~5万円が少なかった。交通費や食費に使う金額は約300円~1,500円、約1,000円~2,000円であり、買い物で使う金額は約2万円前後でソウル観光者に比べて多かった。釜山を訪れる学生の観光行動をみると、リピーター率が高く、限られた時間の中で「買い物」に集中していることを考えると、「買い物」を目的として釜山を訪れる傾向が強いと言えよう。

2010年に行われた内閣府大臣官房政府広報室の国民生活に関する世論調査の「国民の自由時間の過ごし方」において、男女ともに20代が占める割合が最も多かったのは「ショッピングに行く」という項目であった<sup>2)</sup>。福岡や下関から船を利用して釜山を訪問する場合、日本の国内観光よりも安い費用で訪れることが可能である。九州地方およびその周辺に在住する若者にとって「釜山」は、海外というより身近で安い費用で行ける大都市の一つとして位置付けられていることが窺える。事例1と事例2はその一例である。

#### 事例1: 女性(19歳・福岡在住)

福岡から船だと約3時間で釜山に着くので近いし、物価が安いから、特に化粧品とかは日本で買う金額で何ヶ月分が買えます。来るたびにまとめ買いをしています。お店の人も日本語がお上手なので、安心して買い物ができます。

#### 事例2: 女性(20歳・下関在住)

ツアーパックだと約1万円前後で釜山に行けるので友達とよく来ています。滞在日数が短いけど、一日でエステも買い物も充分満喫できるし、国際市場とホテルも近かったので、便利で楽しかったです。



第1図 ボランティアガイドに道を尋ねている日本人若者観光者の様子  
(2010年9月明洞にて筆者撮影)

韓国のソウルと釜山では、観光名所やショッピングエリアにおいて日本語が通じる場所が多く、看板やメニューにも日本語が併記されているなど日本人観光者の受入環境や観光案内機能が整えられている。さらに、韓国側の外国人誘致戦略の一環として各々の観光名所にはボランティアガイドが配置されており、道案内や通訳などの活動を行っている(第1図)。

近年、日本において若者の海外観光離れ現象が指摘されており、阻害要因の一つとして、「外国語でのコミュニケーション」といった言語不安が挙げられている。インタビューの中で多く

の学生が「韓国は外国語に対する心配や不安が少なく観光を楽しめる」と語っており、言葉の問題の緩和は、訪韓日本人大学生観光者における韓国での観光行動を活発化させる一つの要因となっていると思われる。

## 2. 訪日韓国人大学生の観光形態

ここでは、日本を訪れた韓国人大学生観光者の特徴について検討を行う(第4表)。

まず、東京観光をする大学生の場合、滞在期間は4泊5日～7泊8日、大阪を観光する大学生はそれより若干短い3泊4日～6泊7日であった。また、韓国人大学生観光者の中には、東京と大阪の両方を観光する観光者もみられた。東京と大阪を往来する観光者の場合、5泊6日や10泊11日の滞在期間を設けていた。初めての日本観光や今回の観光が2回目と答えた人がほとんどであり、3回以上の訪問者は今回の調査ではみられなかった。

東京を観光する学生は、友達と同行することが多く、一人旅をする学生は大阪の方で多かった。経費は約5万円～10万円であり、訪韓日本人大学生と同じ金額で観光をしていることが分かる。しかし、滞在期間や物価を考慮すると、

第4表 訪日韓国人大学生の観光形態

	東京観光者	東京⇄大阪観光者	大阪観光者
滞在期間	4泊5日, 5泊6日 6泊7日, 7泊8日	5泊6日, 10泊11日	3泊4日, 4泊5日 5泊6日, 6泊7日
訪問回数	初めて, 2回以上	初めて, 2回以上	初めて, 2回以上
同行者	友達, 家族	友達, 一人	友達, 一人
予算	約5万円～10万円	約6万円～7万円	約3万円～10万円
一日の観光費用	約3,000円～5,000円	約3,000円	約3千円～1万円
交通費	約1,000円～2,000円 (東京メトロ一日乗車券使用)	約1,000円	約1,000～2,000円, (関西スルーバス使用)
食費	約2,000円～3,000円	約2,000円	約1,500円～3,500円
買い物	約3,000円～5,000円	約2,000円	約1,000円～3,000円

資料：調査結果により作成。

注：現地参考為替相場(2010年8月16日～27日)

100円=1,226.70ウォン～1,230.60ウォンである。

訪日韓国人大学生は、訪韓日本人大学生に比べて少ない経費で観光をしている。一日の観光費用は、約3,000円～1万円であり、交通費が約1,000円～2,000円、食費が1,500円～3,500円を占めている。また、買い物に使う費用は約1,000円～5,000円程度であった。

韓国人大学生は、手配を自ら行っており、インターネットを利用して航空券や宿泊先を手配していた。主にゲストハウスを利用していたが、韓国人が経営している宿であることが特徴である。

韓国経営の宿に滞在している韓国人大学生観光者は、韓国経営の宿泊施設を利用する理由として、安い値段(1日2,500円～)と韓国人との交流により多様な現地情報が得られること、困った時に助けてもらえることなどを挙げている。また、海外での観光中に直面するトラブルや外国語、異文化に対する不安などを韓国人との交流の中で解決していく側面もみられた。このように韓国経営の宿は海外観光経験が少ない彼らにとっては、海外で安心できる居場所になっていると思われる。宿の予約は、当施設のHPの掲示板に書き込む形式となっており、現地情報やチケット購入の代行など日本に行く前から現地のスタッフとコミュニケーションを取っている場合が多く、親密感が形成されていた。そして、現地での韓国人と交流や情報交換は、観光の楽しさを増す一つの要因ともなっている(第2図)。

また、宿泊施設には第3図のように滞在していた観光者が残した地図やパンフレット、日記やメッセージなど様々な情報が集められている。すべての情報が韓国語で書かれているため、韓国人大学生観光者は現地で得られた情報に基づき、観光ルートや計画を変更するなど、韓国観光者による現地情報は観光行動に影響を与える要素となっている。これらの宿泊施設は、



第2図 宿泊先で情報交換をしている韓国人大学生観光者

(2010年8月東京ゲストハウスにて筆者撮影)



第3図 宿泊者からの観光情報

(2010年8月東京ゲストハウスにて筆者撮影)

韓国観光者向けとなっており、韓国語など韓国システムで経営されている。そのため、他の外国人観光者や日本人との交流はみられない。

海外で韓国人が経営する宿泊施設は日本に限らず、ヨーロッパやアメリカ、アジア圏でもみられる。このような海外における韓国コミュニティは観光インフラ構築にも影響を及ぼしていると思われる。

### Ⅲ 日韓大学生観光者の観光内容

#### 1. 訪韓日本人大学生の観光内容

日本人大学生観光者のソウルと釜山における

観光空間をみると、近隣地域への移動はみられない。つまり、ソウルを観光する人はソウル内で、釜山を観光する人は釜山内で観光行動を行っている。移動手段をみると、ソウルを観光する学生は徒歩や地下鉄を利用している。一方、釜山を観光する学生は徒歩やタクシー、ツアーバスを利用している。

第5表により、ソウルを訪れた日本人大学生の観光行動をみると、1日に3カ所～4カ所を回ることが多い。例えば、訪問1日目は、明洞や宿泊施設の周辺で買い物をし、韓国料理を食べに行くことが多い。訪問2日目は、1) 明洞と南大門市場で買い物や N ソウルタワー(南山タワー)の展望台でソウル市内の景色を見たり、2) 景福宮や昌徳宮などの古宮を見て、そこから近い仁寺洞に移動する。書道・骨董品など伝統の香り高いアートの街で古都の雰囲気を楽しみつつ、伝統小物のショッピングを楽しんだり、昔ながらの間屋市場と近代的な巨大ファッションビルが共存するファッションの街である東大門市場に移動し、買い物をする。3) ブ

ランドショップや芸能人がよく来ると紹介されているカフェがある江南や狎鷗亭洞を訪れるといった観光行動を行っている。訪問3日目は、1) 汝矣島で遊覧船に乗ったり、新村や利大に移動して買い物をする。2) 百貨店及び免税店、大型スーパーでお土産を購入している。3泊4日の日程において帰国日には観光地に訪れることがなく、空港で買い物や時間を過ごしている。ソウル滞在期間の中で百貨店、免税店、コスメショップ、明洞、南大門市場は日本人大学生観光者が必ず訪れる場所であった。一日の観光行動をみると、アパレルショップ、露店などが立ち並んでいる所へ、主に大衆交通手段を利用して行っている。宿泊先から目的地までの移動距離を除くと目的地間での移動距離は短くて、隣接場所間で歩いて回れる範囲を基準としたルートとなっていることが分かった。

続いて、釜山を観光する日本人大学生の観光行動をみると、ほぼ同じところを訪れており、訪問先が限られていた。第6表は、釜山を訪れた日本人大学生の訪問先と観光内容をまとめた

第5表 日本人大学生ソウル観光者の訪問先および観光内容

訪問先及び観光内容	
1日目	午前到着：明洞で買い物 午後到着：宿泊施設の周辺訪問(明洞、梨泰院など)
2日目	明洞/南大門市場/N ソウルタワー(南山タワー)：買い物 故宮(景福宮、昌徳宮)/仁寺洞/東大門市場：歴史的な建物、買い物町並み 江南/アックジョンドン：可愛い SHOP や芸能人がよく来るカフェに訪問、町並み
3日目	汝矣島で遊覧船/新村や利大で買い物 ロッテ百貨店/ロッテマート/E マート：免税品、お土産
4日目	仁川空港

資料：調査結果により作成。

第6表 日本人大学生釜山観光者の訪問先および観光内容

訪問先及び観光内容	
1日目	午前到着：国際市場/チャガルチ市場/ロッテ免税店で買い物 午後到着：国際市場で買い物
2日目	ガイドツアー 釜山タワー/西面でエステ 海雲台で海を見る/アクアリウムやセンタムシティで買い物
3日目	国際市場、ロッテ免税店、E マートでお土産を買う
4日目	釜山空港

資料：調査結果により作成。



ものである。

釜山到着の1日目には、ソウルの明洞のような百貨店、免税店、コスメショップ、アパレルショップ、露店などが立ち並んでいる南浦洞と国際市場に移動し、買い物をしていた。また、同じエリアにある釜山の有名な海鮮市場であるチャガルチ市場への移動もみられる。ガイド付きのツアーを利用している学生も1日目は同様のところを訪れている。そして、2日目は、ガイド付きのツアーを利用している学生は、釜山タワー、西面の順に移動し、エステを受けていた。一方、自由観光型の学生は、海雲台に移動し、海を見たり、大型ショッピングセンターで買い物をしていた。または、ツアー参加者と同様に釜山タワーや西面に移動し、買い物をしている。西面は、南浦洞と国際市場のように百貨店やコスメショップ、アパレルショップが多い繁華街である。釜山を訪れた大学生観光者の場合、1日に3カ所～4カ所を回っているソウル観光者に比べて、2カ所～3カ所を回っており、移動範囲が狭い。最も安い価格で提供されている旅行会社のパッケージツアーの場合、訪問先が国際市場と釜山タワーが立地している南浦洞と西面の2カ所に限られている。

以上により、韓国を訪れている日本人大学生観光者はショッピングエリアを中心とした狭い範囲の観光空間の中で行動していることが明らかとなった。

## 2. 訪日韓国人大学生観光者の観光内容

東京と大阪を訪れた韓国人大学生観光者の観光空間をみると、訪問地域である東京と大阪だけではなく、夜行バスを利用して東京から大阪へ、大阪から東京へ移動している学生もみられた(第7表)。

東京と大阪を訪問した観光者の移動手段は、地下鉄や電車、徒歩であり、東京区内の観光で

は電車を一日自由に乗り放題ができる東京メトロ一日乗車券を利用していた。また、大阪を訪問した学生のほとんどは関西スルーパス(KANSAI THRU PASS<sup>3)</sup>)を購入しており、京都や奈良、神戸まで移動している。第8表により、東京を観光する学生の4泊5日日程の観光内容をみると、1日に4カ所以上を回っている。訪問1日目には、新宿や宿泊施設の周辺を歩き回る。訪問2日目には、原宿から徒歩で表参道、恵比寿、代官山、渋谷まで移動し、買い物や日本の個性的な物や文化の魅力に触れ合う。3日目には、1)アニメに興味を持っている学生はジブリ美術館に訪れることが多く、そこから近い吉祥寺と下北沢まで移動している。2)高級ブランド店や高級クラブが並ぶ銀座の街を歩いてみたい、芸術性が高い建築物が見たい、東京タワーの夜景を楽しみたいなどといった理由から銀座と六本木、東京タワーに訪れたり、3)ディズニーランドで一日遊ぶ学生もいる。訪問4日目には、1)日本の伝統的な文化に触れ合える浅草に訪問し、そこから夜景を見るためにお台場に移動したり、2)東京の周辺地域(横浜と鎌倉)まで移動する学生もみられた。帰国日には新宿や渋谷でお土産の購入や買い物をし、空港に向かう場合が多い。

韓国人大学生観光者の場合、滞在期間中に観光地での記念品や雑貨購入以外の買い物の支出は少なく、帰国前日や帰国当日に余った経費でお土産やお菓子などを購入しており、買い物を重視している側面はあまりみられなかった。

続いて、大阪を訪れた韓国人大学生の観光空間をみると、ほぼすべての学生が大阪、神戸、京都を訪れている(第9表)。

訪問1日目には、大阪城や大阪の中心街に訪れる。そして、観光インフォメーションセンターで観光情報収集および関西スルーパスを購入している。訪問2日目には、神戸に移動し、三

第7表 東京と大阪を訪れた韓国人大学生の観光空間と移動手段

	滞在期間	地域内/地域間移動	移動手段
東京	4泊5日～ 7泊8日	東京区内での移動 東京付近地域への移動 (横浜, お台場, 千葉など)	地下鉄 電車 徒歩
東京⇄大阪	5泊6日 10泊11日	東京から大阪への移動	地下鉄 夜行バス
大阪	3泊4日～ 6泊7日	大阪市内での移動 大阪付近地域への移動 (京都, 奈良, 神戸など)	地下鉄 電車 徒歩

資料：調査結果により作成。

第8表 韓国人大学生東京観光者の訪問先および観光内容

	訪問先及び観光内容	
1日目	到着	新宿/新大久保：町並み
2日目		原宿/表参道/恵比寿/代官山/渋谷：買い物, 町並み
3日目		三鷹の森ジブリ美術館/吉祥寺/下北沢 銀座/六本木/東京タワー：町並み, 夜景 ディズニーランド：テーマパークで一日遊ぶ
4日目		浅草/お台場：日本文化体験, 夜景 横浜/鎌倉：町並み, 景色, 観光地の探訪
5日目		新宿/渋谷：お土産, 買い物/帰国

資料：調査結果により作成。

第9表 韓国人大学生大阪観光者の訪問先および観光内容

	訪問先及び観光内容	
1日目	到着	大阪城/道頓堀：歴史的遺産, 町並み
2日目		姫路城/神戸/三宮/北の異人館/南京町：観光名所の探訪 六甲山/有馬温泉：温泉体験
3日目		京都/清水寺/祇園/金閣寺/嵐山：歴史的遺跡の探訪 奈良/奈良公園
4日目		ユニバーサル・スタジオ・ジャパン：テーマパークで一日遊ぶ 梅田/心齋橋/天神橋：町並み
5日目		大阪/心齋橋/梅田：お土産, 買い物/帰国

資料：調査結果により作成。

宮, 北野異人館, ポートタワー, 南京町など神戸の観光名所を訪れる学生や世界文化遺産に指定されている姫路城に行く学生, 六甲山, 有馬温泉で温泉体験をする学生もみられた。3日目は, 京都や京都・奈良をセットにした移動が多い。京都では, 清水寺, 祇園, 金閣寺, 嵐山を訪れており, さらに奈良まで足を運び, 奈良公園と東大寺を訪れている傾向もある。4日目は, テーマパークであるユニバーサル・スタジオ・ジャパンで一日を楽しむ学生, または, 大阪の繁華街で買い物や町の雰囲気に触れ合う学生もみられた。帰国日には梅田や心齋橋でお土産の

購入など買い物をする場合が多く, 現地ではほとんどの予算を消費して空港に向かう学生が多かった。

以上により, 日本を訪れている韓国人大学生観光者は, 東京観光の場合, 横浜や千葉, 鎌倉まで, 大阪観光の場合, 京都や神戸, 奈良など近隣地域まで移動している。また, 東京と大阪間を移動する学生もみられるなど, 広い観光空間の中で行動していることが確認された。観光者の志向や好みにより移動パターンの多様性及び訪問先の多様化がみられた。

#### IV 日韓大学生の観光経験による認識

ここでは、日韓間における大学生観光者が相手国での観光行動を通してどのような印象を受けたのか、観光前後において認識の変化はあったのかに注目し、インタビュー内容に基づいて分析を行った。さらに、今回の観光で重視することについても検討した。

今回の分析ではグラウンデッド・セオリー・アプローチ (Grounded Theory Approach) に基づいたコーディング (Coding)<sup>4)</sup> を個別のインタビューデータに対して行った。各インタビューデータから生成されたコードをもとにカテゴライズし、観光経験による認識を肯定的な面と否定的な面に区分させた。それをまとめたものが第10表と第11表である。

まず、日本人大学生観光者の場合、韓国観光で重視していることは、「買い物」、「韓国料理」、「コスメ購入」、「エステ体験」、「K-pop」などであり、それに関連する肯定的な印象や満足感を得ていた (第10表)。また、韓国人の親切さや暖かさに触れ合った体験も韓国観光の肯定的な面として挙げられていた (事例3)。

##### 事例3: 女性 (20歳・東京在住)

道に迷って、ガイドブックを見ながら探していたら、韓国人が声をかけてくれて、探している場所まで案内してくれた。とても親切で、韓国人と話ができて良かった。

日本人大学生観光者の間では、韓国に来る前に抱いていた韓国人の反日感情に対する不安や心配、心理的距離感などといった否定的なイメージが、滞在期間中に接した韓国人とのコミュニケーション機会により先入観や否定的なイメージが無くなったという学生もみられた。また、韓国観光において多くの学生が「物価が安い」

ことと「どこに行っても日本語が通じる」ことを肯定的な面として評価していた。加えて、「訪問する前よりも訪問後、韓国についてもっと興味を持つようになった」、「観光中に不自由なことを感じなかったので、また訪れたい」と再訪問の希望が高くなっていることが分かった。日本人大学生観光者は、韓国文化や韓国人と交流ができたことに対して高い興味を示しており、再訪問の動機として挙げていた。例えば、ソウルを訪れた日本人大学生観光者は、「韓国料理も美味しくて、韓国の町並みの雰囲気や韓国人もみんな親切でよかった。次回は今回行けなかったところに行ってみよう」と言い、釜山を訪れた学生は、「ガイドさんもお店の方も親切で、観光する間、韓国人といろいろ話ができ楽しかった。日本から近いので、また来たい」と語っており、観光経験は、韓国訪問に肯定的な影響を与えている。その一方、韓国人の運転のマナーや交通マナー、衛生面、呼客行為などに關しては否定的な印象を受けていた。

さらに、「料理が辛い」、「食べ物が美味しなかった」、「料理の値段が思ったより高かった」、「お店が閉まっていた」など、期待していたこととのずれや実現できなかったことが観光の不満足に繋がる可能性があることが分かった。

続いて、韓国大学生観光者の日本観光において重視することをみると、「日本料理」、「発展国の姿」、「夜景」や「自然」などであった。日本観光を通して受けた印象として、多くの学生が日本人の「秩序意識」や「マナーの良さ」を挙げた (第11表)。例えば、東京を訪れた韓国大学生は、「大都会で人も多く混雑しているが、その中でみんながルールを守っていることに驚いた」、「来る前に日本は秩序意識が高い国とは聞いていたけど、実際に来てみて、肌で感じる事ができた。相手を配慮する気持ちを見

第10表 韓国観光に対する日本人大学生の認識

カテゴリー	詳細内容	
肯定的な面	食べ物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・料理が美味しい, 焼肉が美味しい, マッコリが美味しかった</li> <li>・カルビ, サムゲタンが美味しかった, ビビンバが美味しい</li> <li>・韓国料理, 料理が美味しくて安い, 量が多い</li> <li>・おかずが沢山出る, 思ったより辛い</li> </ul>
	安い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物価が安い, 服が安い, 化粧品が安い</li> <li>・安い値段で美味しいものが食べられる</li> <li>・現地であんまりお金がかからなかった</li> </ul>
	買い物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ショッピング, ショッピングが楽しい, 免税店</li> </ul>
	K-pop	<ul style="list-style-type: none"> <li>・K-pop, CD, 写真集などが買える</li> </ul>
	日本語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語が通じる, 日本語で書いてある, 日本語が話せる</li> <li>・みんな日本語が上手</li> </ul>
	韓国人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親切で優しい, 現地の人と交流, ガイドさんが優しくかった</li> <li>・みんな親切で声をかけてくれる, きれいだし, ほそい</li> </ul>
	美容関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エステ, マッサージ, 化粧品を買おうとサンプルを沢山くれる</li> </ul>
	近い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本から近い, 時差がない, 行きやすい</li> </ul>
	雰囲気	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜まで賑やかである, 夜遅くまで営業している</li> <li>・町並み海の景色がきれい</li> <li>・日本と似ている, 屋台, 治安が良い, 安全, 活気がある</li> </ul>
	利便性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通が便利, 移動しやすい</li> </ul>
否定的な面	文化体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本でできない体験, 観光しやすい, 楽しい</li> <li>・韓国語で少し会話ができて楽しかった, 韓国の市場体験</li> </ul>
	マナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運転が荒い, 信号無視, うるさい</li> <li>・タクシーのスピードが速い</li> <li>・接客があんまりよくなかった, サービスがよくない</li> </ul>
	衛生環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・街が汚い, トイレが汚い, 日本に比べて街が汚い</li> <li>・屋台の衛生面, 食堂があんまり清潔ではなかった</li> </ul>
	食べ物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食べ物が口に合わなかった, 辛いものばかり出る</li> <li>・冷麺があんまり美味しくなかった, 料理が美味しくなかった</li> </ul>
	韓国人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・呼客行為, 偽物を売っている</li> </ul>
現地の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お店が閉まっていた, 行きたかったお店が閉まっていた</li> <li>・思ったよりお土産で売っている記念品とかが高かった</li> <li>・値段が書いて無くて, 分からなかった, 待ち時間が長い</li> <li>・ガイドブックに載っているところは, 日本人が多い</li> </ul>	

資料：調査結果により作成。

習いたいと思った」と語っていた。

その一方、「韓国とは違う異国だと思っていたけど、町の雰囲気がソウルと似ていて、あんまり海外に来ている感じがしなかった。同じアジア圏だから食べ物は似ていると思ったのに思ったより味付けなどが全く違っていて驚いた」、  
「日本に行ったことがある友達や周りの人から東京とソウルは雰囲気が似ているとは聞いていたけど、本当にすごく似ていて驚いた。しかし、夜になると夜景とかが韓国と違って、日本に来ていることを実感した」というように、日本観光に対して韓国と比較して感じることを多くの

学生が語っていた。また、観光前に抱いていた日本人に対する否定的なイメージ(例えば、建前と本音、個人主義、他人への無関心など)が肯定的に変わる傾向もみられ、観光経験が他文化に対する偏見の解消や異文化理解に影響を与えていることが確認できた。事例4はその一例である。

#### 事例4: 韓国人大学生(20歳, ソウル在住)

日本に来る前に周りの人々から日本が個人主義だと聞いて、少し否定的なイメージがあった。実際に来て、食堂とかに行くと一人で

第11表 日本観光に対する韓国人大学生の認識

カテゴリー	詳細内容	
肯定的な面	食べ物	・和食を食べた, お寿司が美味しい, ラーメンが美味しい ・美味しい食べ物, ケーキやクレープ
	先進国	・商店街などキレイで, 様々な店が沢山ある, 多様な商品 ・発展している建物, 技術 ・秩序意識が高い, 見所や食べ物が豊富, サービス精神が高い
	親切	・道を聞いてたらそこまで同行してくれる, 配慮する気持ち ・JRパス買うことも教えてくれた ・優しい日本人, 親切, 大阪の人々が親切
	マナー	・マナーが良い, ルールを守る, 秩序意識
	日本語	・日本語に対する自負心が強い, 母国語が大好きな印象が良かった
	夜景	・夜景がキレイ, 東京タワーの夜景, お台場の夜景, 六本木の夜景
	町並	・町並み, 韓国と似ている, 可愛い店が並んでる町並み ・可愛いSHOP, 個性がある, 自然がともなう, 浅草のお土産店 ・京都の街並み
否定的な面	文化体験	・日本でしかできない体験, コスプレした人々と記念撮影 ・歴史的な遺産, テーマパーク ・明治神宮を訪れたときの気分, 祭り, 浅草のお土産店 ・日本の神社, 自動販売機の文化, 自転車を利用する日本人
	高い気候	・交通費が高い, 食べ物が高い, 物価が高い, お水が高い ・暑い, 暑くて歩いて回れない, 電車のエアコンが弱い ・天気が暑くて, 湿気が多い, 暑さ
	休憩施設	・座るところがあんまりない, 休めるところがあんまりない ・歩いて回る観光において, ただで座って休める場所がない ・飲める水が少なく, 物価が高い, ゴミ箱がない, 飲み水台がない ・交通が混雑, 地下鉄の案内板が分かりにくい, 地図が見にくい
	地下鉄	・地下鉄の路線が分かりにくい, 地下鉄路線が複雑
	食べ物	・食事が口に合わなかった
	言語	・博物館などに韓国版や英語版がないこと, 日本語の対応 ・案内表示が少ない, 英語の表示が見にくい ・英語が通じない, 英語や韓国語の案内板があんまりない
	現地の状況	・お店や道を探すのが難しかった, 案内板がない ・人が多くて混雑, 店が早く閉まる, 入場時間が短い

資料：調査結果により作成。

食べる人も多いし、一人用の席も用意されていることに驚いた。韓国では、一人でご飯を食べたりすると、お店の人や周りの人の目を意識しがちなのに、日本では一人でも周りのことを意識せずに行動しているところや個人を尊重していると感じて、個人主義という言葉からくる否定的な先入観が変わった(著者訳)。

訪日韓国人大学生が日本観光で受けた印象として多く取り上げられていたのは、「観光資源(見所)の豊かさ」、「日本人の気配り」や「親切

さ」、「日本語に対する自負心」であった。その中で日本人の母国語に対する印象は観光者として受け入れ側(ホスト)に不満を感じる要素にも繋がっていた。例えば、東京を訪れた学生は、「日本人は、母国語に対する自負心が強い。韓国の場合、外国人観光者から英語で質問されたら、その相手に合わせて英語で答えようと努力するが、日本では英語で質問したら、日本語で返される場合が多かったので戸惑った。母国語に対する自負心が強いと感じた(著者訳)」と語っており、大阪を訪れた学生からも「あまり英語が通じない。日本語は理解できないと言って

も日本語で話す場合が多い」と言葉が通じにくい印象を受けていた。その他に、休憩場所の不足、外国語による案内板、標識、外国語のメニューの不足など店舗や施設での言葉の壁、外国語の対応などといった外国人観光者の受入環境が訪日韓国人大学生の間では観光の不満足に繋がる可能性があることが示された。

以上のように、韓国人大学生観光者は日本で観光を通して日本に来る前に抱いていたイメージを確かめ、異文化理解や受容する機会としているが、心理的距離感に関しては、日本を観光することとは全く別問題として認識していることが分かった。

## V おわりに

本稿では、日韓大学生観光者の相手国における観光形態と観光経験による認識について検討を行った。その結果、下記の2つの点が明らかになった。

1. 両国大学生の海外観光形態をみると、訪韓日本人大学生観光者は、訪問地域内だけで行動している。短い日程で買い物を中心とした観光行動を行っており、お店の人やガイドなど韓国人とコミュニケーションをとる場合が多い。

一方、訪日韓国人大学生観光者は、1週間近くの滞在時間中、訪問地域だけではなく近接地域まで移動しており、個人の好みや志向によって多様な観光行動を行っていた。また、韓国人大学生観光者は現地で韓国人観光者と交流を行っており、そこから得られた現地の観光情報は観光行動に影響を与えていることが明らかになった。

両国大学生の観光経費は、両国の物価水準や現地滞在期間を考慮すると、日本人大学生観光者は高予算で、韓国人大学生観光者は低予算で観光をしていると思われる。

2. 相手国での受けた印象及び観光前後における認識の変化をみると、日本人大学生観光者は、韓国の物価の安さ、美味しい韓国料理、親切的な韓国人、日本語が通じることに肯定的な印象を持っていた。そして、それが再訪問のきっかけになることや親密感を高める要素となることが示された。その一方、マナーの悪さや衛生環境、期待とのズレは韓国観光の不満足に繋がっていた。韓国人大学生観光者の場合、日本観光において受けた良い印象は先進国の姿、日本料理、夜景、日本人の秩序意識、親切さであったが、外国人観光者向けのサービスに関しては不満を感じていることがみられた。

従来の観光経験に関する研究において、訪問経験が訪問国とその国の人々に対するイメージに肯定的な影響を与えることや、異文化理解の機会を提供する意味で国際観光の重要性が認識されてきた。今回の調査結果からも両国大学生観光者の間で観光経験が相手国を知る機会や異文化理解、受容する機会となっていることや否定的イメージが肯定的イメージに変化したり、偏見の解消など先行研究から報告されている観光経験の肯定的な効果が日韓大学生観光者の間でも確認された。また、日韓大学生が抱えている社会的距離感の場合、訪韓日本人大学生の間では観光の経験が距離感の緩和に肯定的な影響を与えている傾向がみられたが、訪日韓国人大学生の場合、社会的距離感と日本観光は別問題として認識していた。そのため、社会的距離感との関係に直接影響を与えているとは言い難いが、先入観の解消など観光者の認識が良い方向へ変わっていることは確認された。さらに、海外での日本人観光者の観光形態や行動の特徴を著目した研究<sup>3)</sup>で明らかとなった買い物を楽しむことや消費額が多いこと、パッケージツアーの利用が多いこと、滞在時間が短いことなどは日本人若者観光者の中でも共通してお

り、日本人の海外観光行動の特徴を再確認することができた。

今回の調査は、日韓大学生観光者の訪問先での行動パターンについて分析を行ったが、サンプル数が少なかったため、行動パターンの多様性を計っていくためには多くの観光者に同様の調査を実施していくことが望まれる。また、さらなる日韓若者の観光行動や経験の特徴を深く理解するために、観光者がどの活動にどのぐらいの時間を費やしているかを明らかにすることも必要であろう。日韓間における持続的な観光交流や相互理解を図っていく上では、観光者が観光中に直面する様々な環境や状況によって変化する観光経験の質や認識を詳細に究明していく試みも今後の課題として提起される。

## 謝辞

古田悦造先生には、来日してから、今日に至るまで研究上のご指導だけではなく、留学生活の様々な局面においてご指導・ご支援を賜りました。心より感謝の気持ちとご退職のお祝いを述べさせていただきます。

本稿は、2012年9月に広島大学に提出した博士論文の一部を加筆・修正したものである。本研究を進めるにあたり、調査にご協力を頂いた方々やご指導を賜った先生方にこの場を借りて感謝の意を表します。

## 注

- 1) タイム・バジェット調査(時間使用調査)は、観光内で行われる観光行動を網羅的に把握するために用いられる方法として、観光時間配分の量的側面を把握している。本調査では、観光期間単位と一日時間単位の二つの調査を行ったが、本稿では観光期間単位に着目し分析を行った。
- 2) 「ショッピングに行く」項目に対して、年齢

別に占める割合をみると、20～29歳が40.0%、30～39歳が33.9%、40～49歳が33.9%、50～59歳が30.1%、60～69歳が27.3%、70歳以上が19.1%を占めている。性別・年齢別では、男性の場合、20～29歳が30.7%、30～39歳が21.9%、40～49歳が22.5%、50～59歳が19.1%、60～69歳が17.1%、70歳以上が14.2%を占めている。そして、女性の場合、20～29歳が49.3%、30～39歳が44.2%、40～49歳が43.2%、50～59歳が39.5%、60～69歳が36.8%、70歳以上が20.0%を占めている。

3. 関西スルーパス(KANSAI THRU PASS)は、KANSAI 協議会が発行する海外から観光目的に日本を訪問する者が購入できる特別企画乗車券である。3day チケットと2day チケット2つの種類があり、チケット代は、各々5,000円、3,800円である。関西の全地域の地下鉄、JR 以外の電車、バスが乗り放題のチケットである(2010年8月時点)。
- 4) データを文字ごとに区切り、下位の概念を抽出し、それらをもとに少し抽象度の高いラベル名を付け、さらに似たものを集めてカテゴリーという上位の概念をつくる仕組みに基づいて、理論をつくりあげるという一連の分析の流れを指す(戈木クレイグヒル滋子, 2005, pp. 8-11)。
- 5) Bailey(1992), Jansen-Verbeke, M(1991), Nozawa(1992)による。

## 参考文献

- 安 哉宣(2013) : 観光目的地の認知度およびイメージからみた訪問意向の特性. 静岡英和学院大学紀要, 11, pp. 91-102.
- 国土交通省観光庁(2012) : 平成24年版『観光白書』国土交通省, pp. 138-141.
- 戈木クレイグヒル滋子編(2005) : 『質的研究方法ゼミナール』医学書院, 212p.

- Bailey, A.C.(1992):AA yen for travel, The American Express Annual Review of Travel. pp.41-53.
- Caneen, J.M.(2003):Cultural determinants of tourist intention to return, *Tourism Analysis*, 8(2), pp.237-242.
- Dann, G.(1993):Limitations in the use of nationality and country of residence variables”, in Pearce, D. and Butler, R. (Eds), *Tourism Research: Critiques and Challenges*, Routledge, London, pp.88-112.
- Jansen-Verbeke,M.(1991):The synergy between shopping and tourism: The Japanese experience.*Global Tourism*,pp.346-362
- Kim, C. W. &Yun, H. J(2009):A Review and Application of Qualitative Research Methodology in Tourism. *Tourism Sciences Society of Korea*, 33(1). pp. 11-30
- Kim,C.& Lee,S.(2000):Understanding the cultural differences in tourist motivation between Anglo-American and Japanese t ourists. In K.S.Chon, T.Inagi, &T.Oh asi(Eds.), *Japanese tourists: Socioeconomic, marketing and psychological analysis*. New York: Haworth Press, pp.153-170.
- Money,R.B.&Crotts, J.C.(2003):The effect of uncertainty avoidance on information search, planning, and purchase of international travel vacations.*Tourism Management*,24,pp.191-202.
- Nozawa, H.(1992):A Marketing Analysis of Japanese Outbound Travel.*Tourism Management*,13(2),pp.226-234.
- Park,H.P.(1999):A study for influence proportion how the tourism experience works understanding of the local culture. *観光政策学研究*, 6(2), pp.85-99.
- Pearce,P.(2005):Studying tourist behavior, in:P.Pearce(Ed.)*Tourist Behavior:Themes and Conceptual Schemes*. pp.1-17.
- Pizam.A.&Jeong,G,H.(1996):Cross-cultural tourist behavior-perceptions of Korean tour-guides. *Tourism Management*,17(4),pp.277-286.
- Pizam,A.&Sussmann,S.(1995):Does nationality affect tourist behavior?. *Annals of Tourism Research*,22(4),pp.901-917
- Reisinger, Y. &Turner, L. W. (2002):Cultural differences between Asian tourist markets and Australian hosts. *Journal of Travel Research*, 40, pp.374-384.
- Stewart,W,P&Hull,IV,R.B. (1992):Satisfaction of What? Post hoc vs Real-time construct validity. *Leisure Science*,14,pp.195-209.
- Thyne,M,Lawson,R.&Todd,S.(2006):The use of conjoint analysis to assess the impact of the cross-cultural exchange between hosts and guests.*Tourism Management*,27(2),pp.201-213.



**Comparison of Overseas Tourism Forms between Japanese and Korean  
university students  
— 2010 survey —**

**AN Jaesun\***

**Key words:** Overseas Travel, Tourism Forms, Tourism Experience, Japanese University Students, Korean University Students

\* Shizuoka Eiwa Gakuin University Junior College